
『私が1人、机が1つ、壺が1つ』

天斗海 草月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『私が1人、机が1つ、壺が1つ』

【Nコード】

N2442L

【作者名】

天斗海 草月

【あらすじ】

それは空想。

それは現実。

それは曖昧。

< ; ? > ;

私が居た、机があつた、上に壺があつた。

壺を開けるとそこには小さな人の形をした何かが入っていた。

人形のように見える。

緑のドレスを着ている、長い金髪、眼は閉じている。

まるでお姫様の様。

私は壺からそつとその人形のような物を出してみた。

触ってみてもなにも起きない。

冷たいような、暖かいような。

いや、これは冷たい。

死んでいるのか??

そもそもこれは生き物なのか??

確かめる方法がない、わからない。

でも1つ、言えることはあつた。

この人の形をした物は、とても美しかった。

そうだ、名前を付けてみよう。

考えるが、中々思いつかない。

……決まった。

今から、君の名前は だ。

。私が付けた名前としてはいい名前だと思う。

。私の声が聞こえてるか??

聞こえてないかもしれない。

でも、私は呼び続けるよ、。

別に私が誰だっていい、ここが何処だっていい、君が何であろうともいい。

でも、君を と呼ばせてくれ。

、それは私の名前だから。

もう私は私ではない。

私の名前は君が貰ってくれ。

そろそろ時間だ。

行かなくてはいけない。

君の名前が分かるようにしるしを残していこう。

壺に、自分の血で書いた。

。

私は人の形をした物を壺の中に静かに戻す。

蓋をした。

後ろを向き、歩き始めた。

またどこかで と逢える日を。

願いながら、私は消えた。

残されたのは机と壺、それから人の形をした何か。

それから幾年の時間が経った。

壺の中から1人の少女が出てくる。

まるで人形のような可憐な少女。

少女は壺に書いてあった名前を見た。

。

それが自分の名だと思った。

そこには、少女が1人、机が1つ、壺が1つ。

少女は机から飛び降りた。

少女は歩き出した。

何処に向かっていると分からずに。

ただ、真っ直ぐと。

私の名前は。

誰か、居ないかな？？

誰かと、逢えないかな？？

願いながら、少女は消えた。

残されたのは机と壺。

壺には文字が書いてある。

。

<math>?>> ; (後書き)

というわけで、かなり前に書いた作品を載せてみました。初投稿
だぜわーい。

感想などあったら宜しくお願いします。

<？>

という名の少女は歩く。

壺から出た少女はいつたい何処に行こうとしているのか。

それは誰も知らない。

それは誰も知ることが出来ない。

誰も知らない場所。

それでも少女は辿り着こうとしている。

自分だけの世界に。

少女を囲むは白い空間。

壁も、天井も、床もない。

あるのは強い意志の道標。

「行きたい」

「辿り着きたい」

少女はただ、想うだけ。

何日、何年、何万年経ってでもいい。

少女は自分の居場所を手にするために。

歩く。

歩く。

歩く。

立ち止まることも忘れて。

そしてその瞬間が、来た。

少女の前にあるのは光。

白よりも光り輝く。

純白の光。

<:~?> ;

少女は光を見る。

光は文字を映す。

。

少女は言う。

「これが私の居場所なんだ」

少女は光に手を伸ばす。

ふと壺のことを思い出す。

自分が入っていた壺。

少女は腕を止める。

もしも、そこに戻ってしまったらどうしよう。

一瞬の不安。

そして。

不安が全身を埋め尽くす。

少女は恐れることを知ってしまった。

少女が感じた恐怖。

今までは希望に満ち溢れていた。

しかし、今は怖くて体を動かすことも出来ない。

この光に触れたとき、自分はいったいどうなるのだろうか。

目指してた場所に行けるかのしれない。

でも、もしかしたらまた壺の中に行くかもしれない。

希望。

恐怖。

2つが彼女の中でぶつかり合う。

彼女に足りないもの。

それは勇気。

それは自信。

それは知識。

しかし彼女にもすでに得ているものがある。

それは体。

それは命。

それは心。

命を持ったもの。

それは個々によって、有るもの、無いもの、がある。

しかし彼女は知らない。

知ることが出来なかった。

彼女が知っているのは自分の名だけ。

。

彼女は目の前にある光の名を見る。

。

自分の名前。

名前。

。

は、自分の名前。

は何？

「は、私」

「私は、」

不思議。

自分の名前を言う。

それだけで、恐怖が弱まるのを感じた。

。

。

。

私の名前の光。

触れてもいいような気がしてきた。

触れなければいけないような気がしてきた。

触れると、良いことがありそうな気がしてきた。

触れると、良いことがある。

私は、迷わなかった。

私は、光に触れた。

私は、光に包まれた。

私は、消えた。

<t・?>t;

気が付く。

そこは壺なんかじゃなかった。

そこは、よく分からない場所。

上は青くて、白いところもある。

下は緑で、茶色のところもある。

上のほうに眩しい何かがあった。

後ろのほうに、緑と茶色の細長いものが沢山ある。

横のほうに、動いてる黄色のものがあつた。

突然、何かが私にぶつかった。

体を包み込まれるような何か、よくわからない。

それと一緒に、何かが聞こえた。

小さくてよくわからなかった。

しばらくして、また聞こえた。

今度ははっきり聞こえた。

聞こえたのは、私の名前。

。

なんで私の名前が聞こえるのかわからない。

でも。

何故か、私を呼んでいる。

そんな気がした。

声のところに行こうと思った。

そうしたら、体が宙に浮いた。

私は飛んだ。

周りにあったものがどんどん動いていく。

私は、こんなことも出来たんだ。

私の中で、何か広がる感じがする。

しばらくすると、さっきとは違う場所に着いた。

体が自然と止まっている。

ということは私を呼んだのはここかもしれない。

でも、何をしたらいいか分からない。

「*****」

突然、何かが起きた。

私は驚いたが、何か分からない。

頭に響くような、何か。

あ、そうだ、これは、何かが、大きく聞こえた。

「元気な声じゃないか!!」

「元気な男の子ですよ」

「これで私達も安心できる……」

元気、声、男の子、安心……

よくわからない声が聞こえる。

「……………今、私、声って思った??」

声って、何???

……………そう、聞こえるのが声。

私には今、声が聞こえた。

じゃあ、最初のは、男の子の声……か。

男の子……なんでだろう。

聞いたことのない筈なのに、意味がわかるような気がする。

また、声が聞こえた。

私の名前が呼ばれた。

遠くからだ。

「行かなくちゃ」

そう思った。

私は飛ぶ。

着くと同時に、誰かの声が聞こえる。

「よし、完成だ。これで何十万人もの人を救うことができるー!!」

誰かが喜んでいる声。

喜んでいる声。

何故か、嬉しい。

心が温かくなるような感じ。

また、呼ばれた。

あれ、別の場所からも呼ばれた。

もう1つ増えた。

更に増えた。

みんな、私を呼ぶんだね。

行かなくちゃ。

私を呼んでいる、全員のところには。

<:~?>

今なら、分かった。

自分の名前の意味。

。

それは。

希望であり。

明日であり。

夢であり。

心であり。

そして、世界中、みんなが持っているもの。

私の名前は 。

私のことが必要になったとき。

是非、呼んでください。

いつか必ず、行きますから。

約束します。

だって私は、
だから。

だって私は、
未来だから。

未来は、
私。

私は、未来。

未来。

それが私の名前。

そこには壺も机も無かった。

あるのは。

1つの世界と。

たかさんの、未来。

<math>I_t</math>、<math>g_t</math>、(後書き)

はい、というわけで完結です。

ここまで読んでいただき、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2442/>

『私が1人、机が1つ、壺が1つ』

2010年10月13日00時42分発行